

※赤字は、幹事会での意見を反映している部分です。

### 「こども」分野 未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち

子どもは、大野市の宝です。若い世代が大野市で希望を持って結婚や子育てをすることができ、**大野市の未来を拓く大野っ子**が、充実した保育・教育環境の中で、**故郷への誇りと愛着**を持ち、自分の夢に挑戦する力を育めるよう、社会全体で支えていくことが重要です。

このため、**働きながら子育てができる環境**や地域で子どもを見守る体制の充実、子育ての**不安**や悩みなどに対する**相談・支援体制の強化**に取り組みます。

また、教育環境を充実するとともに、**時代に沿った新しい教育**、自然や地域の特性を生かした**大野市らしい教育**にも取り組み、子どもの確かな学力や夢に挑戦する力、故郷を愛する心を育みます。

さらに、**家庭や地域、保育所、認定こども園、学校の連携**を強化し、一丸となって、子どもの健やかな成長を支えていきます。

### 「健幸福祉」分野 健康で自分らしく暮らせるまち

「健幸」とは、健やかで幸せな生活のことです。**人生100年時代**を迎える中、全ての人々が健康で生きがいを持ち、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができ、病気や高齢、障害などにより医療や介護の**支援が必要になったとしても、安心して暮らすことができる**社会づくりが必要です。

このため、市民が食事や運動などの正しい知識を学び、主体的に健康づくりに取り組むとともに、**生活習慣病**やフレイル（※1）の予防を進め、**健康寿命**（※2）の延伸を図ります。

また、病気の早期発見・早期治療によって重症化を防ぐ取り組みを進め、誰もが安心して受診できる地域医療体制の充実を目指します。

さらに、**生活や福祉の課題の解決に向けて**、地域のあらゆる人々がお互いに支えあう**地域共生社会**（※3）を目指します。

### 「地域経済」分野 歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち

中部縦貫自動車道の県内全線開通や北陸新幹線の県内延伸、リニア中央新幹線の整備により、中京圏や**首都圏**との結び付きがこれまで以上に強くなり、人の交流や物流の拡大が見込まれます。また、日本全体で **Society 5.0**（※4）の実現に向けた取り組みが進められるなど、大野市を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。これらのチャンスを最大限に生かすことで、持続可能な経済成長につなげる必要があります。

このため、市内での経済活動の活性化と市場の拡大を見据え、**磨き上げた農林水産物、商品、観光、サービス**などの大野市ならではの地域資源を売り出していくとともに、新たな商品の開発やサービスの創出に取り組みます。

また、**後継者の育成や担い手の確保、次世代技術**の導入などに取り組むとともに、**新たな働く場所を創出し**、誰もが生き生きと働くことのできる環境を整備することで、地域を支える産業の振興に取り組みます。

## 「くらし環境」分野 豊かな自然の中で快適に暮らせるまち

大野市の**豊かな自然環境**は、先人から受け継がれてきた何ものにも代えがたい大切な宝です。美しい山々や河川、**田園風景**、**星空**、清らかな**地下水**は、生活に安らぎと彩りを与えてくれるものであり、一人一人の力を合わせて**守り続けて**いかなければなりません。

一方、より快適な生活環境の**整備**も重要であり、**自然環境と調和**しながら、誰もが**快適**に暮らすことのできる持続可能なまちづくりが必要です。

このため、**豊かな自然環境**を守る活動や**ごみ**の減量化・再資源化、地球環境に関する教育や啓発などに市民とともに取り組むことにより、環境にやさしい**循環型**のまちづくりを進めます。

また、快適な生活環境の礎となる道路や上下水道などの社会基盤を、自然や景観に配慮して整備し適切に保全するとともに、社会の変化に対応した身近な**移動手段の確保**や雪対策の確立に取り組めます。

## 「地域づくり」分野 みんながつながり地域が生き生きと輝くまち

現代の日本社会において、生活様式の変化や情報通信技術の発達により、**人間関係が希薄化**しているなか、大野市では、これまで「結」の心で共に**助け合い支え合いながら**特色ある地域を守り続けてきました。

しかしながら、自治会や団体においては、**担い手の減少**や高齢化により活動力が低下し、安全で安心な暮らしだけでなく、地域の存続そのものが危ぶまれているところもあることから、これまで培ってきた人のつながりを大切にしながら、多様な**人材を確保**し、活力のある地域を次世代につなげていくことが必要です。

このため、地域づくりの拠点となってきた公民館を**中心**に、地域福祉（※5）はもとより、**防災力・防犯力の強化**や**空き家・空き地の適正な管理と利活用**、**伝統文化の継承**などを地域における重要課題として位置付け、**地域活動の活性化**や**世代間交流の促進**とともに一体的に取り組めます。

また、**若者の地域活動への参加**や**自主的な活動**を通して、将来を担う**リーダーを育成**するとともに、関係人口の創出と拡大や、**移住者の受け入れ**にも積極的に取り組めます。

## 「行政経営」分野 結の人とまちを持続的に支える自治体経営

かつてない人口減少や高齢化の波が押し寄せる中、持続可能なまちづくりを進め、将来像を実現するためには、行財政の最適化とともに、限られた資源を最大限に生かして、新たな発想のもとで挑戦していくことが必要です。また、これまで以上に市民とともに積極的にまちづくりを進めていくことが重要です。

このため、「経営管理」の観点に立ち、**公共施設の再編**や**長寿命化**、**次世代技術の導入**などに取り組み、**行政の効率化と財政の健全化**をさらに推進するとともに、選択と集中による市民ニーズに応じた事業展開につなげます。

また、少子化や高齢化が進み、非常に厳しい状況に対応するため、**部局横断的な組織づくり**を進めるとともに、時代の変化や市政の課題に的確かつ適切に対処できる意識や能力を持った職員を育成します。

さらに、さまざまな媒体を活用した**市政情報の発信**に加え、広く**市民から意見を聞く場**を設けるとともに、若者や女性など幅広い層が市政に参画できる機会を増やすことで、市民に開かれた市政運営と**市民と協働**したまちづくりに積極的に取り組めます。

## 用語解説

※ 番号	用 語	解 説
1	フレイル	加齢により心身が老い衰えた状態のことです。しかし、早く治療や予防を行えば、元の健常な状態に戻る可能性があります。フレイルを経て要介護状態へ進むと考えられており、高齢者においては特にフレイルが発症しやすいことがわかっています。
2	健康寿命	日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる生存期間のことです。
3	地域共生社会	地域の人と人とのつながりや支え合いにおいて、支援の必要な人を含め誰もが役割を持ち、社会保障などの分野の枠を超えて地域全体が連帯することで、住民の暮らしや地域をともに創っていく社会のことです。厚生労働省では「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部を設置し、地域共生社会の実現を福祉改革の基本コンセプトに位置付けています。
4	Society5.0	<p>狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すものです。</p> <p>Society5.0 で実現する社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値が生まれます。また、AI (人工知能) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されると言われています。</p> <p>※IoT モノのインターネット。様々な「モノ (物)」がインターネットに接続され (単に繋がるだけではなく、モノがインターネットのように繋がる)、情報交換することにより相互に制御する仕組みです。</p> <p>※AI 言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピューターに行わせる技術です。</p>
5	地域福祉	地域の住民や関係者が協力し合い、誰もがそれぞれの地域でその人らしく安心して充実した生活が送れるよう、公的なサービスや住民による自主的な活動などの社会資源を組み合わせながら、地域で安心して暮らしていくための取組みです。